

第6学年「図工」の学力向上のための方策

児童の実態（成果と課題の分析）

- 成果** ○ 9割の児童が自分の感性や発想に自信をもつことができている。
○ 表現するための基礎的な技能が身に付いている。
- 課題** ▼ 全ての児童が自分の感性や発想に自信をもてるようにする。
▼ 身に付けた技能を働かせ、自分の表現を追求する。

指導の重点（身に付けさせたい力）

- ◇ 自分の感性や発想に自信をもち、表現することができる。
- ◇ 自分と友人の感性や発想の違いを認め、価値づけ合うことができる。
- ◇ 身に付けた技能を働かせ、自分なりの表現を創造することができる。
- ◇ ICTを活用し、構成や効果をいかして画像編集ができる。
- ◇ 新しい技能(グルーガン等)を習得し、表現にいかすことができる。

具体的な改善策

- 毎時間、感性や発想のよさを見つけ、全ての児童に声を掛け価値付けていく。
- ICTを活用し、全体でモニター鑑賞する場面を設け、友人の表現から自分の見方・感じ方を深めることができるようにする。(Formで振り返りを提出)
- 全ての児童の発想が表現できる題材を、開発・改善し提示する。
- スモールステップで画像編集の方法を身に付けることができるよう、題材の内容や順序を厳選し提示する。
- 新しい技能が効果的に表現できる題材を厳選し、提示する。

達成目標

- 対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して理解するとともに、材料や用具を活用し、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりすることができるようにする。
- 造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考え、創造的に発想や構想をしたり、親しみのある作品などから自分の見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
- 主体的に表現したり鑑賞したりする活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養う。